

## 資料 「新しい時代にふさわしい教育基本法の在り方について」

1 教育基本法は、教育の基本理念及び基本原則について定める法律として、昭和22年に公布・施行され、以来、我が国の教育は50年以上にわたって教育基本法の下で進められてきた。しかしながら、先に述べたように、制定当時とは社会が大きく変化しており、また、高校、大学進学率の著しい上昇や生涯学習社会への移行など教育の在り方も変容を遂げてきている。さらに、教育全般について様々な問題が生じており、21世紀を迎えた今日、将来に向かって、新しい時代の教育の基本像を明確に提示し、それを確実に実現していくことが求められている。(略)

2 教育改革国民会議の報告においては、これからの時代の教育を考えるに当たっては、個人の尊厳や真理と平和の希求など普遍的原理を大切にするとともに、「新しい時代を生きる日本人の育成」「伝統、文化など次代に継承すべきものの尊重、発展」「教育振興基本計画の策定など具体的方策の規定」の三つの観点から、新しい時代にふさわしい教育基本法を考えていくことが必要であると提言されている。  
(文部科学大臣の諮問内容(概要)2001年11月)

## 資料

「教育は一般文化現象と同じく、私的、民間的性質を有して居り、本来国家の活動の範囲外に位するものである。教育者と被教育者との関係 教育関係 は芸術家と作品との間のものと同様に、極めて個人的の関係であり、そこに国家の介入を許さないのである。(中略)

もし地方教育行政を、内務官僚から切りはなしても、もし文部省の支配下におき、文部官僚が指揮監督するものならば、従来弊害は依然として除去されないことになる」

(田中耕太郎：『教育基本法の理論』1961年)

## 資料

「今の教育基本法に書いてあることはけっこうなことですが、やはり日本人としては、日本のうるわしき伝統を維持する点が薄弱なんでございます。それらの点について教育の根本を反省するということがあります。...わが国のうるわしき伝統は、...ともかくも国家、公に対して忠誠ということは昔の歴史から通じて動いておるのでありまして、...常識的に、教育基本法の第一条に八つの徳目があげてありますが、それだけではわが国のうるわしき伝統が伝え得ないのじゃないか」  
(清瀬一郎文相「小、中学校の教育課程の改善について」諮問・1956年3月)

## 資料

「現行の教育制度は占領下という特異な情勢のもとに行われ、わが国の実情に即しない点もありますので、教育制度の改正が慎重を期すべきことは当然ですが、次代の国民の育成に重要な影響を与えるものでありますから、できるだけ早く改正したいと思ひまして、憲法改正を待たずに提出したわけでありまして」  
(鳩山一郎首相「臨時教育制度審議会設置法案」1956年2月)

## 資料

「教育基本法においては、既にご承知の如く、人格の完成をもって教育本来の目的と定めておるのである。わが国において最も欠けておることは、個人の覚醒がなかったというにあったと考える。この点が国を誤らしめたところのものではなかったかと考えておる。これから先、文化的な平和国家を建設するためには、どうしてもこの個人の尊厳を認めていかなければならぬというのが私どもの確信である」  
(「教育基本制定」当時の高橋誠一郎文部大臣・1947年3月)

資料 「教育を受ける権利」を行使するとは、どのようなことだろうか？

1 School is an institution built on the axiom that learning is the result of teaching. And institutional wisdom continues to accept this axiom, despite overwhelming evidence to the contrary.

2 In school we are taught that valuable learning is the result of attendance; that the value of learning increases with the amount of input; and finally, that this value can be measured and documented by grades and certificates.

3 School teaches us that instruction produces learning. The existence of schools produces the demand for schooling. Once we have learned to need school, all our activities tend to take the shape of client relationships to other specialized institutions.

( Ivan Illich; Deschooling Society.1970 )

4 In the banking concept of education, knowledge is a gift bestowed by those who consider themselves knowledgeable upon those whom they consider to know nothing.

5 Education for them[teachers]is the transfer of "knowledge". It consists in extending this "knowledge" to passive educatees and preventing them from experiencing the development of the active, participatory condition, characteristic of someone who knows.

6 Education must begin with the solution of the teacher-student contradiction, by reconciling the poles of the contradiction so that both are simultaneously teachers and students.

7 Just because the educator's task is not dichotomized into two separate moments( one in which s/he "knows," and another in which s/he speaks about this "knowledge" ) , education is a permanent act of cognition.

8 This is why dialogue as a fundamental part of the structure of knowledge needs to be opened to other Subjects in the knowing process. Thus the class is not a class in the traditional sense, but a meeting-place where knowledge is sought and not where it is transmitted.

9 If the education is the relation between Subjects in the knowing process mediated by the knowable object, in which the educator permanently reconstructs the act of knowing, it must then be problem-posing. ( Paulo Freire; Pedagogy of The Oppressed.1972 )